

基礎看護学Ⅰ実習

Ⅰ. 実習目的

患者と人間関係の構築を図りながら、取り巻く環境を理解し、看護援助の実際を学ぶ。

Ⅱ. 実習目標

実習目標	学習項目
1. 患者を尊重した態度で関わりができる	①患者と主体的にコミュニケーションができる。 ・患者の権利、倫理原則、看護者の倫理綱領（JNA・ICN）の理解 ・接近的コミュニケーションの基本的態度 ・コミュニケーション技術（傾聴の技術・情報収集の技術・説明の技術） ・言語的・非言語的コミュニケーション ②自分の言動が患者にどのような影響を及ぼしたか、また、コミュニケーションにおける自己の傾向と課題がわかる。 ・プロセスレコード
2. 入院生活及び健康障害が患者に及ぼす影響がわかる	①患者の入院目的と現在の身体的な状態がわかる。 ・入院目的（病期、症状、検査、治療） ・観察技術（バイタルサイン・フィジカルアセスメント） ・発達段階 ②患者の生活上の変化がわかる。 ・生活時間、衣食住の変化 ・患者の思い、A, マズローのニーズの階層説
3. 療養生活の環境をアセスメントし、環境調整ができる	①患者の入院環境を物理的環境、人的環境の視点でアセスメントできる。 ・生活環境のアセスメントの視点（広さ、温度・湿度、光・音、空気の清浄性） ・人的環境 ②患者の安全確保及び安楽につながる環境を整えることができる。 ・看護における安全・安楽 ・スタンダードプリコーション
4. 患者の自律・安全に配慮し、看護援助を実施（参加）できる	①患者に必要な援助の目的と意義を理解し、原理・原則をふまえて援助が一部実施（参加）できる。 ②実施した看護の評価ができる。 ・援助の目標、患者の反応（S・O データ） ・患者にとっての援助の意味

Ⅲ. 評価の観点

目標	観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1. 患者を尊重した態度で関わるができる	○	○	○
2. 入院生活及び健康障害が患者に及ぼす影響がわかる	○	○	
3. 療養生活の環境をアセスメントし、環境調整ができる	○	○	
4. 患者の自律・安全に配慮し、看護援助を実施（参加）できる	○	○	

Ⅳ. 実習展開

1. 事前学内実習

1) 目的

各自が実習する実習病院の特徴を理解し、実習で必要とされる基礎看護技術に取り組み、実習の準備を整えることができる。

2) 目標

- (1) 実習する病院が属する医療圏・地域の特徴について各自で学習しチームメンバーと共有できる。
- (2) 事例に必要な援助をチームで選定し、技術練習に取り組むことができる。
- (3) 事例のロールプレイを通して、自己の人間関係技術における課題を確認できる。

3) 展開

時間数	内容	方法	学習課題
冬期休暇前 1コマ	全体オリエンテーション	実習全般に係る事項、基礎看護学実習のねらい、事前学習についての説明を受ける。	基礎看護学Ⅰ実習事前学習ワークシート 基礎Ⅰ－1－学内事前学習
1コマ 2時間	オリエンテーション 事前学習の共有	基礎看護学Ⅰ実習の目的・目標・実習展開について説明を受ける。 実習チーム毎に学習内容を共有し、自分たちがどのような施設に実習に行くのかを共通確認する。	基礎看護学Ⅰ実習事前学習ワークシート 加筆 基礎Ⅰ－1－ワークシート（個人）
1コマ 2時間	ロールプレイと評価 演習計画立案	ロールプレイに取り組む。 個人でふりかえり・評価し、臨地実習における課題を認識する。 チーム毎に事例に対する援助計画を立案する。	プロセスレコード 基礎Ⅰ－3－患者理解シート 基礎Ⅰ－2－ワークシート（チーム） 基礎Ⅰ－4－技術実施シート
2コマ 4時間	計画の沿った実施・評価	チーム毎に学内演習計画に沿って技術演習。	
1コマ	実習施設オリエンテーション	担当教員から実習施設のオリエンテーションを受ける。	

2. 事後学内実習：LTD；予習・ミーティング

1) 実習目的

看護の知識・理論を用いて体験した実習を価値づけ、他者と共有する。

2) 目標

- (1) 実習で体験した看護場面を具体的・客観的に記述できる。
- (2) 実習で学んだことを看護の知識・理論に基づいて価値づけできる。
- (3) 自己の学びを他者と共有できる。

時間数	内容	方法
2コマ 4時間	LTD 予習	ミーティング資料を作成する。(調べ学習) 編成したチーム毎に、ミーティング資料を集め、製本する。
0.5コマ 1時間	LTD ミーティング	ミーティング用 LTD に沿って、カンファレンスを行う。

3. 臨地実習

	実習内容	学習課題
1日目	(1) 臨地オリエンテーション 病院・病棟の構造、備品・物品の配置、病棟のチーム編成・ 関連する職種、病棟の週間・毎日の予定、電子カルテの使用 方法など (2) 患者紹介、患者とのコミュニケーション、情報収集 (3) カンファレンス	実習計画表 基礎Ⅰ-3 基礎Ⅰ-4 熱型表
2日目	(1) 病棟の患者の援助に参加、情報収集 1日の目標・行動計画発表と調整 環境調整、日常生活の援助見学、患者とコミュニケーション (2) カンファレンス	実習計画表 基礎Ⅰ-3 基礎Ⅰ-4加筆 熱型表 プロセスレコード
3日目	(1) 病棟の患者の援助に参加・実施、情報収集 1日の目標・行動計画発表と調整 環境調整、日常生活の援助見学・実施 患者とコミュニケーション、バイタルサインの観察 (2) カンファレンス	実習計画表 基礎Ⅰ-3 基礎Ⅰ-4加筆 熱型表 リスクアセスメント マップ
4日目	(1) 病棟の患者の援助に参加・実施、情報収集 1日の目標・行動計画発表と調整 環境調整、日常生活の援助見学・実施 患者とコミュニケーション、バイタルサインの観察 (2) 最終カンファレンス	実習計画表 基礎Ⅰ-3 基礎Ⅰ-4加筆 熱型表 基礎Ⅰ-5

V. 実習記録・その他の記録

実習記録	配布枚数	備考
①実習計画表	2 枚	
②基礎 I - 1 - 事前学習	1 枚	冬期休暇前
③基礎看護学 I 実習 事前学習ワークシート 個人ワーク用	1 枚	冬期休暇前
④基礎 I - 2 - ワークシート (チーム)	1 枚	
⑤プロセスレコード	1 枚	
⑥熱型表	1 枚	
⑦基礎 I - 3 - 患者理解シート	1 枚	
⑧基礎看護学 I - 4 - 技術実施シート	3 枚	
⑨基礎 I - 5 - 実習のまとめ	1 枚	
⑩対象者の安全を守るためのリスクアセスメントマップ	1 枚	
⑪ LTD ミーティング用資料 (A3)	1 枚	

VI. 評価について

- 1) 実習評価はルーブリックの評価基準 (尺度) に基づいて評価する。
- 2) 自己評価は学生自身が行い、ボールペンで記載する。
- 3) 指導者・教員評価は実習指導者と協議の上、教員が行う。

基礎看護学Ⅰ実習 ルーブリック

	評価規準	キーワード	評価資料	評価基準（尺度）			
				S	A	B	C
実習目標 1	①患者と主体的にコミュニケーションができる。	・患者の権利、倫理原則、看護者の倫理綱領(JNA・ICN)の理解 ・接近的コミュニケーションの基本的態度 ・コミュニケーション技術（傾聴の技術・情報収集の技術・説明の技術） ・言語的・非言語的コミュニケーション	観察	倫理的視点を持ちコミュニケーション技術を意図的に用いて人間関係を築くことができる。	相手を尊重しコミュニケーション技術を用いて関わることができる。	コミュニケーション技術を活用しようとする努力が見られる。	コミュニケーション技術の活用が難しく、患者に関わることができない。
	②自分の言動が患者にどのような影響を及ぼしたか、また、コミュニケーションにおける自己の傾向と課題がわかる。	・患者の言動、感じたこと・考えたこと、自己の言動、分析 ・受容、共感、傾聴、自己分析・自己理解	記録（プロセスレコード）対話	自己の言動と非言語的コミュニケーションが患者に与えた影響と相互作用の過程を深く分析し課題も含めた記述ができる。	自己の言動が患者に与えた影響を分析し自己の傾向が記述できる。	自己の言動が患者に与えた影響を1つは分析できるが自己の傾向は記述できない。	自己の振り返りができない。
実習目標 2	③患者の入院目的と現在の身体的な状態がわかる。	・入院目的(病期、症状、検査、治療) ・観察技術(バイタルサイン・フィジカルアセスメント) ・発達段階	記録（患者理解シート）対話	情報収集した患者の入院目的、疾患、症状、具体的な治療内容を記述でき、正しく病期の判断ができる。観察の視点に沿って収集した症状が記述でき発達段階を考慮して身体的状態が理解できる。	情報収集した患者の入院目的、疾患、主な症状、簡単な治療内容を記述でき、正しく病期の判断ができる。観察して収集した症状が記述でき、身体的状態が理解できる。	情報収集した患者の疾患、主な症状を記述でき、病期の判断ができる。観察して収集した症状を1つでも記述できる。	患者の疾患、治療に関する情報収集に不足があり、病期の判断ができない。必要な観察ができず、身体的状態が理解できない。
	④患者の生活上の変化がわかる。	・生活時間 ・衣食住の変化 ・患者の思い ・A、マズローのニーズの階層説	記録（患者理解シート）対話カンファレンス	患者の身体的・精神的・社会的状況を理解し、現在の患者の思いが判断できる。	患者の身体的・精神的状況を理解し、現在の患者の思いが判断できる。	患者の身体的状況を理解し、現在の患者の思いが判断できる。	入院前の日常生活状況の情報を収集することができず、生活上の変化がわからない。
実習目標 3	⑤患者の入院環境を物理的環境、人的環境の視点でアセスメントできる。	・生活環境のアセスメントの視点（広さ、温度・湿度、光・音、空気の清浄性） ・人的環境	観察記録（患者理解シート・技術実施シート）	患者の人的環境、その関係性について理解でき、患者の療養環境について、すべての視点に沿ってアセスメントできる。	患者の人的環境について理解でき、患者の療養環境について、必要な3つの視点に沿ってアセスメントできる。	患者の療養環境について、必要な1つはアセスメントできる。	患者の療養環境について全く記述できない。
	⑥患者の安全確保及び安楽につながる環境を整えることができる。	・看護における安全・安楽 ・スタンダードプリコーション	観察記録（技術実施シート・リスクアセスメントマップ）カンファレンス	患者の状況を把握し、環境調整について安全（スタンダードプリコーションを含）・安楽・自立の視点に沿って方法・注意点を考え、病床環境を整えている。	患者の状況を把握し、環境調整について安全（スタンダードプリコーションを含）の視点に沿って方法・注意点を考え、病床環境を整えている。	環境調整について一般的な方法・注意点を考え、病床環境を整えている。	患者の病床環境を整えることができない。
実習目標 4	⑦患者に必要な援助の目的と意義を理解し、原理・原則をふまえて援助が一部実施（参加）できる。	・生活支援技術の目的と意義 ・生活支援技術の原理・原則の理解と応用 ・患者の生活変化 ・患者の反応	観察記録（技術実施シート）カンファレンス	患者にとっての援助の目的・意義を生活の変化と関連させ考察したうえで、看護師とともに患者に実施されている援助を原理・原則をふまえて実施している。	患者にとっての援助の目的・意義を考察し、看護師とともに患者に実施されている援助を原理・原則をふまえて一部実施している。	一般的な援助の目的・意義を理解し、看護師とともに患者に実施されている援助に参加できる。	援助の目的・意義が考察できず、看護師とともに患者に実施されている援助に参加できない。（傍観している）
	⑧実施した看護の実践が評価できる	・患者の反応（S・Oデータ） ・援助の目標 ・患者にとっての援助の意味	記録（技術実施シート・まとめ）カンファレンス	実施前・実施中・実施後の患者の反応を正確に捉え、援助の目標に向けて実施した援助の結果について知識を活用して評価している。	実施前・実施中・実施後の患者の反応を捉え、援助の目標に向けて実施した援助の結果を評価している。	実施前・実施中・実施後の患者の反応を1つは捉え、援助の結果を目標に沿っていないが評価している。	実施前・実施中・実施後の患者の反応を捉えることができず、援助の結果を評価できない。

	評価規準	キーワード	評価基準（尺度）			
			S	A	B	C
態度	①期日までに必要な学習ができる。	事前学習 実習中の必要な学習 実習記録	期日までに事前学習ができる。実習中に必要な学習を判断し、日々学習を積み重ねる。日々および最終記録が期限内に提出できる。（3点）	期日までに事前学習ができる。実習中に必要な学習ができない。最終記録が期限内に提出できる。（2点）		事前学習、実習中の学習ができない。最終記録は期限内に提出できない。（0点）
	②看護学生として責任感をもって行動できる。	個人情報保護 体調管理 身だしなみ 適切な言葉づかい・挨拶 連絡・報告・相談	実習中に知り得た個人情報を漏洩しない。（漏洩する可能性のある行動も含め）実習記録、メモの取り扱いが正しくできる。 体調を整えて実習に臨み、体調がすぐれないときは自ら申し出て必要な対処ができる。その場の状況に合わせた言葉づかい、挨拶ができる。 自己の行動を報告し、自分自身で判断できないことは相談できる。学生間、指導者・教員と必要な連絡ができる。（3点）	左記の項目のうち4つ（個人情報保護、身だしなみ、連絡・報告・相談を含む）以上の行動ができる。（2点）	左記の項目のうち2つ（個人情報保護、身だしなみを含む）以上の行動ができる。（1点）	左記の項目のうちすべての行動ができない。（0点）
	③生命の尊厳と権利を尊重し、主体的に対象との関わりができる。	人間の尊厳・患者の権利 倫理原則 看護師の責務 コミュニケーション技術 主体的行動 寄り添う態度	コミュニケーションに必要な基礎的知識と態度を身につけ主体的に関わることができる。（3点）			コミュニケーションに必要な態度ができず、対象と関わるができない。（0点）
	④グループ内での役割を果たし協働できる。	カンファレンスの参加 グループ内での役割と責任 メンバー間の関係	カンファレンスに積極的に参加できる。 グループメンバーと良好な関係を築き、役割と責任を自覚した行動ができる。（3点）		カンファレンス参加には積極性に欠ける。 グループメンバーと良好な関係を築くことができる。（1点）	カンファレンスに積極的な参加ができない。グループメンバーとの関係にも課題がある。（0点）
	⑤助言に対する内省行動ができ、自己の課題を明確にできる。	助言に対する真摯な態度 自己評価 客観的な自己の言動の振り返り	助言に対する真摯な態度を示すことができる。 客観的な振り返りをおこない、自己の課題を明確にできる。（3点）		助言に対する真摯な態度は示すことができるが、客観的な振り返りができない。（1点）	助言に対する真摯な態度を示すことができず、自己の振り返りができない。（0点）

基礎看護学Ⅰ実習 評価表

学籍番号	氏名									
実習施設（病棟）										
実習期間	（臨地）	令和	年	月	日（ ）	～	月	日（ ）		
（学内）										
出席時間数					欠席時間数					

総括的評価

* 中間評価なし

学習活動における評価基準項目			自己評価（最終）	指導者・教員評価
実習目標	1	①患者と主体的にコミュニケーションができる。	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (3)
		②自分の言動が患者にどのような影響を及ぼしたか、また、コミュニケーションにおける自己の傾向と課題がわかる。	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (3)
	2	③患者の入院目的と現在の身体的な状態がわかる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (3)
		④患者の生活上の変化がわかる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (3)
	3	⑤患者の入院環境を物理的環境、人的環境の視点でアセスメントできる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (3)
		⑥患者の安全確保及び安楽につながる環境を整えることができる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (3)
	4	⑦患者に必要な援助の目的と意義を理解し原理・原則をふまえて援助が一部実施（参加）できる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (3)
		⑧実施した看護の評価ができる	S ・ A ・ B ・ C	S (10) ・ A (8) ・ B (6) ・ C (3)
態度	①期日までに必要な学習ができる		S ・ A ・ C	S (3) ・ A (2) ・ C (0)
	②看護学生として責任感をもって行動できる		S ・ A ・ B ・ C	S (3) ・ A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	③生命の尊厳と権利を尊重し、主体的に対象との関わりができる		S ・ C	S (3) ・ C (0)
	④グループ内での役割を果たし協同できる		S ・ B ・ C	S (3) ・ B (1) ・ C (0)
	⑤助言に対する内省行動ができ、自己の課題を明確にできる		S ・ B ・ C	S (3) ・ B (1) ・ C (0)
学生自己評価（態度評価基準点の3分の1）			点／5点	
学習活動における評価（指導者・教員）				点／95点
実習成績 秀：とても優れてできる：90点以上 優：優れてできる：89点～80点 良：できる：79点～70点 可：不十分さを残すができる：69点～60点 不可：できない：60点未満				合計点 点／100点
				実習成績
実習指導者			担当教員	

実習計画表

美空計画表

学籍番号

氏名

日	目 標	9	10	11	12	13	14	15	16
第 () 日目	本日の実習目標	予 定 ・ 実 施							
	本日の学び								
	()								
第 () 日目	本日の実習目標	予 定 ・ 実 施							
	本日の学び								
	()								

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

基礎 I -1- 学内事前学習

学籍番号

学生氏名

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

学内実習計画	学内実習の実際と評価、および次回に向けての課題

1. 実習する病院の周辺の環境

・各都道府県は、医療のレベルに応じて一次・二次・三次医療圏を設定しています。
実習病院が属する二次医療圏とその医療圏の地理・人口・人口構成などの特徴を述べなさい。

2. 病院の特徴 規模・診療科など

・医療提供施設は、大きく病院と診療所に分類されます。その違いは何ですか。
皆さんが実習するのは病院ですが、実習施設はどの病院の中で何に分類され、どのような役割を担っていますか。
また、実習病院の理念や設置主体を調べて、どのような役割があるか、考えたことを述べなさい。

・実習病院の規模(ベッド数、どのような診療科があるか)を述べなさい。

3. あなたが実習する病院に対して、地域の人はどのような期待を持っているでしょうか。

1. 2. で学習したことを基に、あなたの考えを述べてください。

氏名
小堀 誠二

[illegible]

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

氏名

場面と意図		取り上げた理由	
対象の言動	感じたこと・考えたこと	学生の言動	分析・考察
取り上げた理由に戻っての考察		助言	

(専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科

対象者の安全を守るためには、対象理解と対象が置かれている環境を理解することが鍵となります。
以下の表を用いて、各視点から考えられるリスクを挙げ、関連性を考えて、合理的にリスクアセスメントをしてください。

発達段階の影響		健康障害の影響	
生活習慣・性格などの影響		その他の影響	

LTD ミーティング用資料

学籍番号 氏名

1. 実習中の分からなくて困ったこと、分からなかった用語
5. 患者の反応で印象に残ったこと
2. 臨床場面で役立った専門的知識・技術
6. 実習でこそ学べたこと
3. 臨床場面で足りないと感じた専門的知識・技術
7. 話し合いを通して感じたこと・今後の自己の課題
(カンファレンス後に記入する)
4. 指導者・教員の言動で印象に残ったこと
- 参考文献
- (専)京都中央看護保健大学校 看護保健学科